大会名称: **東日本大震災復興支援**
第10回全日本社会人バスケットボール選手権大会

開催場所: **酒田市国体記念体育館　Aコート**

試合区分: **No. 115 男子　　3位決定戦**

期　　日: **2014(H26)年11月3日（月）**　　主審: **増渕 泰久**

開始時間: **12:50**　　副審: **成田 康平 ,山崎 真吾**

日本無線 （実業団3）			○ 98					18 — 22 29 — 18 26 — 18 25 — 11 — — —		● 69		**横河電機** （実業団4）				
NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F	NO.	S	選手名	PTS	3P	2P	FT	F
1	*	福田　大佑	17	2	4	3	1	0		田ヶ谷 治	−	−	−	−	−
2	*	福田　侑介	20	6	1	0	3	1		西村 直久	5	0	2	1	1
3		会川　剛史	6	0	2	2	2	7	*	梅田 稔人	2	0	1	0	0
6	*	鈴木　伸之	15	3	3	0	1	8		神﨑　健	0	0	0	0	1
7		松林　弘祐	−	−	−	−	−	9		佐藤　岳	0	0	0	0	1
9	*	小林　純也	11	1	3	2	0	10	*	小野 大貴	18	1	5	5	2
15		近藤　大	12	1	3	3	3	13		小林 一哉	0	0	0	0	0
19		三原　大樹	8	0	3	2	3	14		森川　純平	−	−	−	−	−
22		鈴木　裕也	2	0	1	0	0	18		齋藤 航平	−	−	−	−	−
24		菅原　康平	−	−	−	−	−	20		張　威威	3	0	0	3	0
31	*	那谷　一樹	7	0	3	1	3	21	*	山田 純也	28	0	13	2	3
34		樋渡　大樹	0	0	0	0	1	22		浦中　旭	0	0	0	0	2
58		鎌田　晃輔	0	0	0	0	0	24	*	梶原　剛	6	1	1	1	1
								28		能登 裕介	−	−	−	−	−
								33	*	笹　義仁	5	0	2	1	3
								77		飯島 章仁	2	0	1	0	2
コーチ		尾崎　智則 ／ TEAM						コーチ		小納　真良 ／ TEAM					
		合計	98	13	23	13	17			合計	69	2	25	13	16

S: スターター　PTS: ポイント　3P: 3ポイントシュート　2P: 2ポイントシュート　FT: フリースロー　F: ファール

1P：両チームハーフコートマンツーマンでスタート。横河電機はインサイドを中心に、日本無線はアウトサイドを中心にオフェンスを展開。日本無線＃6鈴木、＃1福田、＃15近藤の3ポイントが随所に決まる。横河電機は粘り強いリバウンドから速い展開で＃21山田、＃10小野がシュートを決めて食い下がる。中盤、日本無線は横河電機の激しいディフェンスで中々得点が伸びない。一方、横河電機はインサイドを中心に＃21山田、＃33笹が得点し、横河電機が22－18とリードする。
2P：両チームハーフコートマンツーマンでスタート。横河電機は堅いデイフェンスから速い展開で、＃1西村のカットイン、＃24梶原の3P、＃10小野ミドルシュートで得点し勢いに乗るかと思われたが、日本無線は＃1福田のドライブイン、3ポイント、＃15近藤、＃2福田の3ポイントで応戦する。残り1分、横河電機のディフェンスの乱れから、日本無線は＃19三原の連続2Pで逆転、＃6鈴木の3ポイントでリードを広げ40－47で日本無線がリードし2P終了。
3P：両チームハーフコートマンツーマンでスタート。開始早々、日本無線は＃6鈴木、＃1福田が得点。一方、横河電機は＃7梅田＃10小野が得点し、一進一退の攻防が続く。試合が動いたのは残り5分、横河電機はシュートを放つもののリングに嫌われる。日本無線は＃31那谷の連続2P、＃6鈴木の3ポイントなど怒涛の攻撃をみせ、リードを13点に広げる。日本無線の勢いは止まらず58－73日本無線が15点リードし3P終了。横河電機万事休す。
4P：立ち上がり横河電機は＃21山田が連続得点で奮闘し必死に追いかけるも、日本無線のシュートが随所に決まりリードが広がっていく。残り6分横河電機はタイムアウトとるも日本無線の怒涛の攻撃は勢いをさらに増し。結局日本無線が69－98で勝利し、昨年度優勝チームの意地を見せた。